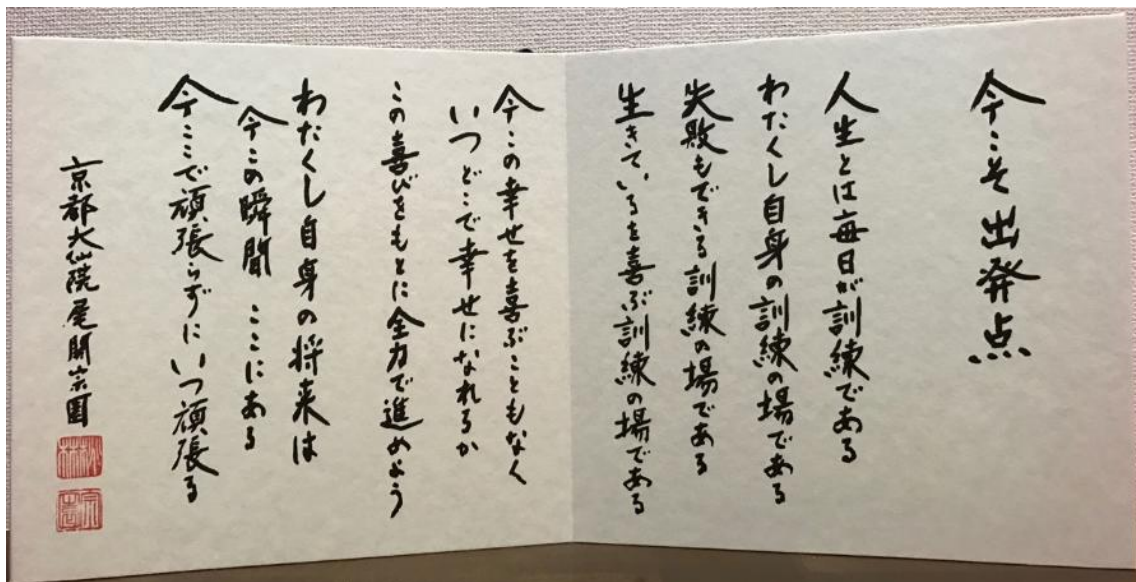


2017.6.25.

## 『今こそ出発点』 大徳寺大仙院 尾関宗園和尚

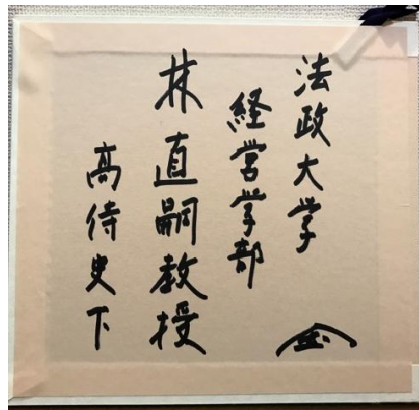
「いつやるか？ 今でしょ！」という林修講師のCMが2009年に大ヒットしました。予備校講師として多くの受験生諸君に生活の指針として考えたキャッチフレーズです。書籍としても、『いつやるか？ 今でしょ！』（宝島社、2012年）が発行されています。

その丁度4半世紀前の1984年、「今こそ出発点 いま頑張らずにいつ頑張る！」という名言を、大徳寺大仙院の尾関宗園和尚が説いていました。書籍としては、『いま頑張らずにいつ頑張る！ 尾関宗園の意識革命語録』（日新報道、1984年）が発行されていました。人生の大切な岐路では誰しも頑張らなくては行けないが、明日になってから頑張ればいよいよと思いがちでも、今こそ頑張るという決意が大切です。



私が初めて尾関宗園和尚にお会いしたのは1975年、大学院修士課程の時に、企業の経理部長会で著名人の講演を速記して文章化するアルバイトの仕事をしていた頃です。講師として講演された和尚は、誰にでも熱く語りかける情熱的な精神訓話には、非常に感銘しました。そこで京都に出張する時には、なるべく時間を作って大徳寺大仙院へ出かけて、和尚の精神を身近に実感してきました。落ち着いた石庭園を前に瞑想をし、精神を清めてもらいました。和尚がたまたまお寺に居られた時には、お話をさせていただき、色紙や本を購入して、サインも書いていただきました。和尚は実に気さくな方であり、元気で前向きに頑張ろう、という気概に溢れている方です。臨済宗大徳寺派の禅僧であり、まさに禅宗の教えを実践されている方です。人生で悩んでいる人、頑張ろうという気持ちになかなかできない人、集中力を高めて何とか成功したいと思っている人、人生の危機から何とか抜け出したいと思っている人、こういう方々は是非京都大徳寺大仙院を訪れて、和尚の精神訓話に耳を傾け、身体で実感してみてください。和尚の柔和な微笑みとともに闊達な精神気力に触れて、元気をもらって

きて下さい。



京都市北区紫野の京都市バス停から歩いて、右手に精進料理の名店「泉仙」を過ぎて大徳寺の正門をくぐると、秀吉の聚楽第から移築された山門が見えます。大徳寺は 24 もの塔頭を有する大規模な臨済宗寺院であり、著名な国宝や重要文化財がたくさんあります。ただし大部分の塔頭では一般参詣を認めておらず、常時拝観可能な塔頭は龍源院、瑞峯院、大仙院、高桐院などです。大仙院は永正 6 年（1509 年）に大徳寺 76 世住職の古岳宗亘（こがくそうこう、大聖国師）によって創建されたものであり、大徳寺塔頭寺院の中で北派本庵として最も尊重されている名刹と言われています。特に尾関宗園和尚は昭和 40 年（1965 年）から住職を務められており、2007 年からは閑栖をされています



直ぐ横には芳春院があり、前田利家・まつ以来、加賀前田家の菩提寺として著名です。NHK 大河ドラマ「利家とまつ」で一躍有名となり、その直後に 1 回だけ拝観が許されたので、私も行ってきました。

その隣には、織田信長の菩提のために豊臣秀吉が建立した総見院があります。通常は拝観できませんが、一度御茶事が開催された時に拝観許可が出たので、私も拝観してきました。時代の寵児であった信長公らしく石塔は球形であり、加藤清正が朝鮮出兵から持ち帰ったとされる井戸石が設置されていました。その井戸の水を汲み上げて沸かしたお茶を飲みましたが、感銘深き物がありました。

西の方へ歩いて行くと、肥後細川家の菩提寺である高桐院があり、細川忠興とそのガラシャ夫人の墓があります。閑静な竹林が印象的な寺院であり、昔を偲ぶことができるでしょう。

その他には、石田三成が建立しその墓を弔う三玄院、織田信長が父信秀の菩提を弔うために建立した黄梅院、足利満詮が建立した養徳院、黒田長政が父如水の菩提のために建立した黒田家の龍光院、豊臣秀吉が弟秀長の菩提のために建立した大光院などがありますが、拝観はできません。